会 議 記 録					
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会			会議場所	第3委員会室
				担当職員	藤村
日 時	平成25年10月29日(火)		開 議	午後	2 時 15分
			閉 議	午後	2 時 50分
出席委員	田中 並河 山本 中村 西村 石野 堤 (欠席 吉田委員長)			< 木曾議長 >	
執行機関出席者	辻田教育部長、川勝教育部次長、河原教育総務課長、松山学校教育課長、樋口社会教育課長、小西学校給食センター所長				
事務局	藤村事務局次長、阿久根事務局副課長兼議事調査係長事務取扱				
傍聴	☐ 可・ ☐ 否	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名	その他 0名

会 議 の 概 要

1 田中副委員長 開議

2 事件

行政報告

教育部長 あいさつ

(1)「若木の家」について

学校教育課長説明

- ・10月2日の常任委員会で「社会教育団体も宿泊ができる施設として整理すべき」という意見を多数いただいた。検討の結果、従前どおりの使用方法とし、「若木の家管理規則」に則って使用料は無料とすることで整理した。学校教育施設使用条例に組み入れる内容で12月定例会に上程する予定であった条例改正案は提案しない。
 - ・当初予算は、条例提案と合わせ社会教育費で計上していたが、中学校費に組み替えることとし、12月に補正予算として提出する。
 - ・バリアフリー工事は早急にとりかかる。
- 以上のように考えている。

質疑

< 石野委員 >

現行通り利用できることで多くの社会教育団体が喜ぶ。バリアフリー工事は障害者や子供たちの利用もあるので早急に実施されたい。

< 並河委員 >

変更しないことの周知はどのようにするのか。

< 学校教育課長 >

若木の家条例について、各利用団体に説明していたが、改めて説明していきたい。

< 中村委員 >

バリアフリー化工事の予算はいくらであったか。今年度に実施するのか。

< 学校教育課長 >

設計委託料106万円、工事費664万円、合計770万円。早急に設計委託し、工事は年明けぐらいになる。年度内完成を目指す。コミュニティ助成金が10/10あっている。

< 田中副委員長 >

12月に予算の組み替えをすることだが、それまでの業務委託料執行は財政上問題はないか。

< 学校教育課長 >

財政課とも協議した。支払いは議決後になるので大丈夫である。

< 木曾議長 >

予算審査のあと、正副議長と正副委員長とで現地視察した際に、消防から指摘を受けた点の改善は。

< 教育部長 >

指摘点は改善する。

< 田中副委員長 >

本日の説明を受けて、バリアフリー化工事に着工することに異議はないか。

全員了

年度内完成に努力されたい。

~ 14 : 27

(2) 学校給食食材について

学校給食センター所長 「学校給食の地産地消の状況について」資料に基づき説明

- ・地産率は資料のとおり
- ・平成22年度から約15%割高までならば地元産を優先して採用することとした。
- ・今後、地産率を上げるためには15%という優先の度合いを上げる必要がある。
- ・給食費は保護者負担であるので給食センター運営委員会で協議、相談したい。

~ 14 : 34

質疑

< 西村委員 >

説明を聞き、大体は理解した。地元産野菜の率が下がっているの、一層努力されたい。15%のラインを上げれば地元産の率は上がるが、入札においては不公平になるのではないか。他の方法は考えられないか。

< 学校給食センター所長 >

旭町で給食用食材の生産に取り組んでもらっているが、農家からは作物は全量引き取り あらかじめの価格保証の条件が出される。は可能だが はできない。それで生産者が二の足を踏まれることがある。競争の論理からは外れるが、15%の枠を広げるしかないのかと思う。

<西村委員>

旭町だけでなく、市全体に声をかけ、地産地消が進むようにされたい。資料ではほうれん草の全体量が0であるが、使っていないのはなぜか。

<学校給食センター所長>

当初、9品目で統計をとっていたが、H11に保健所の指導があり、3分以上の加熱を求められた。給食センターの鍋で3分加熱するとほうれん草はペースト状になってしまうので取り扱いをやめた。小松菜等で代用している。

<並河委員>

農家は購入してもらえなければ安心して作れないということになる。学校給食の契約農家ということで安心して作ってもらえる仕組みづくりをしなければ地産地消の拡大は難しいのではないか。

<学校給食センター所長>

仕組みづくりは大切である。しかし、現状では給食食材は業者を通じて購入しており、地産地消を進めるのは農林部門でやっている。仕組みづくりは給食センターだけの努力では不十分であるので他とも協議していきたい。

<並河委員>

埼玉県草加市で先進地事例を視察した。管理栄養士が直接畑を見に行ったりと、学校と農家が持ちつ持たれつでやっておられた。自校方式とセンター方式の違いがあり難しいかもしれないが、地域農家の育成も含めてできる限り地産地消を進められたい。

<学校給食センター>

協議をより進めていきたい。

<田中副委員長>

仕組みづくりも含み、農家育成の観点からも割合を高められるよう努力されたい。

<堤委員>

その他のことになるが、本日、城西小学校を視察した際、トイレのにおいがきつく、また、台風18号による体育館の雨漏り修繕の要望もあった。聞いているか。

<教育総務課長>

承知している。雨漏りは急な改善は難しい。トイレは出来る限りの対応をしていきたい。

<堤委員>

検討されたい。

<田中副委員長>

子供の教育環境のことであるのでよろしく願います。

<教育部長>

できる限り環境改善に努める。基本的には城西小は大規模改修を要する施設である。本格的な改修は耐震化が終わってからになると思うが、それまでは対処療法的になるができる限りやっていきたい。

(教育部 退室)

~ 14 : 46

3 その他

次回月例会の日程、内容について

<田中副委員長>

次回の月例会の日程を決める。内容は、住民投票条例制定を求める署名数が規定数

を超え、現在、名簿の縦覧中である。12月議会に提案されれば、総務文教常任委員会に付託されることになるので、事前に内容等の理解を深めておきたい。

11月18日(月)午後3時からの開催を決定

その他、何もなければ、これで総務文教常任委員会を閉議する。

14:50 閉議